

奴隷工場:アルゼンチンにおける ボリビア人に対する労働搾取ビジネス

マリオ・ユーティス(IMADR副理事長)

アルゼンチンに住むボリビア人コミュニティは厳しい現実と直面している。外部から遮断された繊維工場で、労働者は休むことなく働かされている。この無法状態に数千人のボリビア人が置かれているのだ。

政府統計によれば、繊維工場で働くボリビア人の非正規労働者は全国で5万から7万5千人いる。この数字は氷山の一角であり、そのような悪質な組織に搾取されているラテンアメリカの移住労働者は無数に存在する。アルゼンチン、ブエノスアイレス州にはこうした闇の工場は約2万軒あると言われ、その内、3千軒以上は連邦首都ブエノスアイレスに存在している。

近年これらの違法組織の多くが連邦首都から追放されたため、その違法活動への抗議の声や反対運動は大きく後退した。しかし彼らは決して消滅したのではなく、ブエノスアイレス大都市圏、それも見つかりにくい場所に散らばっただけである。彼らは闇の世界のさまざまな組織とつながっているため、実態を明らかにして戦うことはほぼ不可能である。

それら工場の中には倒壊や火災の危険にさらされている家屋もある。ボリビア人労働者はそのような場所で毎日12時間から18時間働かせられ、「とんでもない金額」の賃金しか受けていない。

闇工場は一般住宅の中にあり、労働者を徹底的に管理している。そうした中、2012年3月30日に悲劇が起きた。繊維工場の一つに

火がつけられ、子ども4人を含む6人のボリビア人が死亡した。この工場(家屋)には25家族が超過密状態で生活をし働かされていたことが、火事をきっかけに判明した。

当局の追及はボリビア人移住者コミュニティ内に対立を引き起こした。そうした工場を所有あるいは管理するボリビア人たちは、労働供給が絶えないよう、敷地内の安全基準措置の実施を6か月間延期するよう求めた。その一方で、闇工場の搾取状態からうまく逃げ出したボリビア人労働者のグループが、雇用主を刑事告訴した。少人数ではあるが、彼らが提供した情報から、当局は何軒かの闇工場を閉鎖に追い込んだ。

工場から脱出して刑事告訴した一人は、ボリビアで求人広告を見て応募したそうだ。広告では、給料は高く、家族用の住宅も提供すると書かれていたそうだ。だがブエノスアイレスに到着するやいなや、18時間無給で働かされた。

IMADR ラテンアメリカ・ベースは、他の市民社会組織と協力して、政府の法的責任を追及している。そして、ボリビア人コミュニティ内で風通しをよくして話あいができるよう促している。そうすれば、このような状況を招いた外部および内部の問題に、これからは彼ら自らが協力してうまく対処できるようになる。

(Mario Yutzis)



ブエノスアイレスの闇工場で働くボリビア人移住労働者



マリオ・ユーティス副理事長